

謎の人 Q、デイヴィド・ウィルコック、及び「収穫の日」

Greatchain

2019/01/02

ホワイトハウスの「インサイダー」と言われ、記憶に残っていた、Q と名乗る人物が、昨 12 月 5 日のブッシュ葬儀と、その裏で起こっていた“謎の封筒”事件以来、謎のコメントを提供することによって、ブッシュと逆賊どもの対立劇が、一気に結末に近づいた観がある。もうこれで、わかっていながら発言しなかった人々も、黙ってはいないであろう。たとえば、英王室が、あのクリントン財団に、長年、資金を送っていたという事実の暴露は、めまいのするような事件ではなからうか？ この世界は、もう今までの世界ではなくなった。

デイヴィド・ウィルコックのある対話ビデオの中で、聞き手が、「実は、あなたが Q ではないかという説があるんだが？」と水を向けると、ウィルコックは、「オーマイゴッド、とんでもない」と驚いて言った。その後で、物理的にあり得ないことだと説明をしていたから、それは確かであろう。しかし、ウィルコックは、それを疑われるだけの十分な理由の持ち主である。そのことを少し述べてみよう。

私はウィルコックの書くものに、昔から興味があり、2012 年のいわゆる「マヤ歴」終末の前から、彼の終末論を、彼とともに信じていた。が、特に何も起こらなかった。しかし今、それが起こっているかもしれないと考えている。まず Q は、「今、起ころうとしていることを止めることはできない」と言い、「未来が過去を証明する」と言っているから、終末論的な必然を信じていることがわかる。このブログを読んで下さっている方は知っておられるだろう。私は、聖書の「毒麦と良い麦」の区別が、時とともに明瞭になり、収穫のときになって、毒麦は刈り取って火にくべられる、という比喩を、仮説以上のものとして通してきた。今、完全にその通りになった。これ以上びったりした比喩はなかった。今まさに毒麦が一挙に刈り取られ、火に投げ込まれようとしている。

これは、ウィルコックからヒントを与えられたものである。詳しく言えば、彼の研究する『一者の法』という高次元人からのチャネリングによる本の中に、Harvest という言葉があり、これがどうしてもわからなかったが、ある時、聖書のここで使われている「収穫」とわかり、これが、終末を意味する言葉とわかった、という箇所がある。これは、悪いものを良いものに見せかけて人を騙す、あるいは隠す、悪辣な陰謀団が、だんだんその力を失っていく過程

の比喩としても、これ以上のものはない。ここ数週間に、なんとその力は一気に失われ、我々をさえ、あわてさせているではないか？ そのきっかけは、Qの予言した12月5日の、ブッシュ葬儀の裏の出来事だった。今、起こっていることは、長い人類史から見ても、高次元人から見ても、すでにわかっていたことだと考えられる。

またウィルコックは、数年前、やがてアメリカ人は、信頼しきっていた人々に裏切られるようになる、と予言していた。これも見事に当たった。その落差があまりにも大きいために、人々はなかなか信用しなかった。これはカトリックなども含め、世界的な出来事である。しかし彼はあっぱれなことに、「自分は誰よりも厳しく悪を追求するが、ひとたび、人々が彼らに復讐するようになったら、彼らを誰より庇うだろう。それはこの恐ろしい歴史を繰り返さないためだ」と言った。これは大規模なペドフィリアを、我々が知る前のことである。

Qは、トランプとその同盟を、導き、忠告し、予言しているように見える。彼はETか、ETに近い人間のように、一人ひとりの逆賊の罪状が、見えているかのようである。これは仮定だが、もし彼が、他者の心が見え、隠し事や奸計もわかる人だとすると、我々が陰謀団から解放され、次に入っていく高次元世界（『一者の法』の教える内容がそれ）は、Qの世界である。それがどういう世界かは、ウィルコックの『ザ・シンクロにシティ・キー』に説明されている――

（その世界では）自分に対しても他の誰に対しても、怒り、ストレス、抑圧、欲求不満、失望、屈辱をつくり出すことが、文字通り不可能になる。嘘をつく、騙す、盗む、不敬を働く、不当に要求する、困らせる、辱しめる――こういったことが一切不可能となる。誰もがいつでも、あなたの考えているすべてを知っている。（p. 635）

つまり、New World Order グローバリストの取ってきた、世界支配のための常套手段が、すべて使えなくなる世界に、入っていくように我々は予定されているということ、したがって、その生き方しか知らない彼らは、生きていけないということである。ここに言われていることは、アメリカ人がやっと目覚めた、ワシントン政府のやり方に、あまりにも一致していることに、彼らは誰もが驚くだろう。

一国でも、世界全体でもよいが、いったい人民全体を支配するのに、政府がこれほどの悪徳の限りを尽くさなければならないだろうか？ そんなことはない。もっと穏当に常識的な手段を使っても、治められるはずである。このように極端に悪が凝縮された政治は、不自然ではないか？ これをQや、SOTNや、私は、終始一貫して「純粹悪」と呼んでいる。「純粹悪」などというものは自然界には存在しない。それはサタン世界にしか存在しない。

そして、そういう不自然なものを、存在させるものがなければならない。これを見て何かを
覚れ、それを、そこから脱出のためのテコにせよ、と言っている何かがなければならない。
そしてそこから脱出するのに、単なる悪の厄介払いで済むはずはない。今から戦いが本当に
始まる。我々は、与えられた意味を考えて戦わないかぎり、そして単に復讐をするだけで
は、負け戦と同じで、同じ戦争の延長にすぎない。